



『大～きなハチの巣』

この大きな芸術作品は広報1月号で掲載した“大きな山芋”に続き村田さん（中村）が持ち帰ったものです。

このハチの巣は公民館に展示してありますので是非一度ご覧下さい。

ちょっと一息

～画家 香月泰男の魅力～

画家香月泰男が亡くなられて約20年経ちますがその人気は衰えるどころか幅広く支持され続けています。ここまで人気のある理由は果たして何だろうか？

画家香月泰男といえ

ばシベリアシリーズに代表されるように、「暗い絵」が印象的であるが反面、「台所作家」とも言われますように、「回りにある何気ない日常を好んで描き続けられています。」

「シベリアというしっかりとした核に、台所

作家」という意外な一面を持つという懐の深さが魅力であり、ここが全作家の中でも、好感度・将来度でトップクラスに入っている理由かもしれませぬ。」と何かの美術雑誌の特集に書いているのです。

また、現在は作品が市場に少数しか出てこないため、品薄感が絶えないと言われています。

いずれにしてもシベリアだけの一つのイメージでは語りつくせない懐の深い作家です。



早春のまだ川風も冷たい時期、川べりにネコヤナギがきれいな花をつけているのを見つれることがあります。ネコヤナギは、春に葉が出る前に花をつけます。都会生活の中では、こうした風情に春を感じる機会も少なくなりました。

ネコヤナギの花は、ネコの尾に似た銀色の花が美しいので、花材としても喜ばれ、花屋さんの店先でも見かけます。ネコの尾のような形の花は花穂で、たくさん花がそこに群がっているのです。この木は雌雄別株で、雄花にはおしべだけ、雌花にはめしべだけしかありません。

ネコヤナギは、またの名をエノコロヤナギとかカワヤナギともいい、主として北半球の温帯から亜寒帯まで広く分布しています。日本全国の、ほとんどの地域で見ることができます。

ネコヤナギ

ヤナギというと、「柳腰」とか「柳に風と受け流す」などの言葉があるように、枝の垂れ下がった木を連想しますが、ネコヤナギのように下垂しないのもヤナギ科の仲間です。

中国では下垂するものを「柳」、それ以外を「楊」と区別しています。

それにしても、日本は四季おりおりの区別がはっきりしていて、それぞれの季節の風情が楽しめるので幸せです。ところが最近、地球環境の変化で異常気象が起きているよう

うでちょっと気がかりです。

三月二十三日は、「世界氣象デー」です。氣象観測に不可欠な国際協力に、もっと関心をもちたいものです。

